



刈谷工場に現存するトヨタグループ創業の原点  
愛知製鋼株式会社

2016年1月8日、当社知多工場第2棒線圧延工場で加熱炉の爆発事故が発生し、トヨタ自動車様をはじめ協豊会の皆様には、ご心配とご迷惑をおかけしましたことを改めて深くお詫び申し上げますと共に、多大なるご支援ご協力により予定より早期に復旧、生産再開できましたことに心よりお礼申し上げます。

当社は、「1. 8」で学んだことを私たちの財産として活かし、二度とお客様にご迷惑をおかけすることのないよう再発防止策を徹底し、「ゼロからの再出発」による体質強化のための全社プロジェクト「ステップアッププラン」の完遂に邁進してまいります。

この事故を通じて、当社はトヨタグループ各社様をはじめ協豊会の皆様との「絆」をより強く感じる事となりました。そして奇しくも時を同じくして、もう一つ皆様との「絆」につながる出来事がありました。

当社の歴史は、創業者である豊田喜一郎氏が「国産初の乗用車をこの手でつくりたい」との夢を実現させるべく、「よきクルマは、よきハガネから」という想いのもと、(株)豊田自動織機製作所内に自動車部と製鋼部(現 愛知製鋼)を設置したことから始まりました。

1935年、喜一郎氏はついに国産初の「A1型試作乗用車」を完成させましたが、この「A1型試作乗用車」が生まれた建屋の一部(試作工場)が、当社の刈谷工場に現存しています。

耐震上の理由から、本建屋をいったん解体することが検討され、2016年1月、トヨタ自動車(株)豊田章一郎名誉会長が現地をご視察されました。

その後、張名誉会長、内山田会長をはじめとする多くのトヨタグループVIPの方々をご視察にいられました。

そして2月24日、トヨタ自動車(株)豊田章男社長もご視察され、「再出発の日に出発の地点を訪れたのは何かの運命」、「創業期のオーラを感じ、ゾクゾクしたよ」と語り、トヨタグループの原点ともいえる歴史ある建屋と空間に大変感動され、当社でもトヨタ創業の地としての歴史の重みや重要性を再認識することとなりました。

現在は、トヨタ自動車(株)殿とトヨタ産業技術記念館殿とともに、この建屋を「創業者の情熱に想いを馳せる場」、また「トヨタグループや協豊会の皆様との絆を深める財産」の一つとして保存していく方向で検討しています。



豊田章一郎名誉会長のご視察



豊田章男社長のご視察



当時の試作第1号車  
A1型乗用車完成(1935年)



トヨタ AA型乗用車(レプリカ)  
トヨタ博物館所蔵 2016年撮影